

□ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。ただし作問の都合上、一部改変した部分があります。

今日、私たちは政治については、ひどく漠然とした概念しかもっていません。これに対し、古代ギリシアにおいては、「政治」のイメージははるかに a メイカク です。

※¹ ポリスの成立以前、この地域を支配したのは王たちですが、この王たちは ※² 官僚組織をもたず、貴族たちとの関係においても、相対的に優位に立つに過ぎませんでした。もともと王は戦士たちの組織の指導者であり、他の戦士から隔絶した存在ではなかったのです。しかも、この王たちはポリスの成立の b カテイ で没落し、有力者たる貴族たちが共同して交易や防衛にあたるようになります。貴族たちは変動期の小集団のリーダーに起源をもっています ※³、すでに触れたように、平民の大部分を c コウセイ する農民と同じ経済基盤に立っていました。貴族といえども、農民たちとまったく別の存在ではなかったのです。

A、都市に集住した貴族たちは政治・軍事・司法の主導権を握りましたが、平民もただ黙って従う存在ではありませんでした。 ※⁴ ホメロスの『イリアス』や『オデュッセイア』などを読んでいても、 ※⁵ 民会や裁判に一般の市民たちが集まっている様子が描かれています。彼らの声や雰囲気は、民会の決定や判決に少なからぬ影響を与えたでしょう。平民は貴族を批判し、その行動を制約することができたのです。

① このようなポリスのあり方から生まれてきたのが「政治」です。「政治」には、公共の場所において、人々が言葉を交わし、多様な議論を批判的に検討した上で決定を行うという含意があります。あるいは、それこそが「政治」の定義なので

す。

現在、英語などで政治をあらわす言葉はポリティクス(Politics)です。この言葉はもちろん、古代ギリシアのポリスに起源をもちます。 B、なぜ、ポリスという古代ギリシアに特有な都市国家の形式が、政治をあらわす一般的な言葉となっているのでしょうか。明らかにポリスのあり方と政治の概念の間には、深い結びつきがあるのです。

※⁶ アリストテレスは『政治学』において、同じく支配といっても多様な種類があり、その区別をすることが何よりも重要であると述べています。例えば王はその臣民を支配するし、家の主人はその奴隷を支配するでしょう。 C、ポリスにおける支配、すなわち ② 政治的支配は、そのような支配とは違うというのです。政治的支配の特徴は、自由で独立した人々の間における「相互的な支配」にありました。

現代の私たちは、政治という言葉を、ときに安易に使う傾向があります。およそ人間が集まれば、そこに政治があるとしなければいわれますが、このような用法にはいささか注意が必要です。少なくとも古代ギリシアの人々にしてみれば、王が臣民を上から支配することや、主人が奴隷を力で隷属させることは、「政治的」とは呼ばれなかったからです。あくまで、自由で相互に独立した人々の間における共同の自己統治こそが「政治」だったのです。

d チヨメイ なギリシア史家であるモーゼス・フィンリーは、「単に民主政治だけでなく、さらに政治、つまり公の議論によって意思決定に到達し、しかる後に開かれた社会的経験の必要条件としてこれらの決定に従うという技術をも発見したのは結局、ギリシア人たちであった」と指摘しています。この場合、「開かれた社会的経験」とは、すべての市民が参加できること、批判に対して開かれていることはもちろん、自分たちの力を自分たちの力で変えられることを意味するのです。

あるいは、二〇世紀を代表する政治学者の一人であるバーナード・クリックも「デモクラシーと政治的支配の発明、ついで市民の間での政治的討論を通じて統治するという伝統、これらの起源は、ギリシアのポリスおよび古代ローマの共和政が持っていた思想と実践の中に求められる」と述べています。

これらの発言を西洋中心主義として批判することも不可能ではありません。しかし、「政治」、そしてこれから検討する「民主主義」について、これを古代ギリシア人の発明として捉えることの意義も小さくありません。

第一に、政治において重要なのは、公共的な議論によって意思決定をすることです。言い換えれば実力による強制はもちろぬ、経済的利益による買収や、議論を欠いた妥協は政治ではないのです。また、仮に話し合いによる決定がなされたとしても、それが閉じられた場所において、特定の人々によってのみなされたものであるとすれば、政治的な決定とはいえませんが、あくまで「公共的な議論」が不可欠なのです。

第二に、公共的な議論によって決定されたことについて、市民はこれに自発的に服従する必要がありました。公の場において自分たちで決定したことなのだから、その結果について、誰に強制されるのでもなく、自分で納得して従うべきであるというわけです。ここには政治において「納得」と、納得に基づく「自発的な服従」が重要であるという意味が込められています。それがあってはじめて政治の営みは、「開かれた社会的経験」の必要条件となるのです。逆にいえば、自ら決定に参加し、納得したものでなければ、いかなる決定にも従わないという古代ギリシア人の自主独立の精神がここにみられます。

③ このような「政治」の成立を e センチ にして、初めて民主主義は実現します。 (宇野重規『民主主義とは何か』)

- ※1 ポリス——古代ギリシアの都市国家のこと。都市国家とは、都市が政治的に独立して一つの国家を形成しているものを言う。
- ※2 官僚——国家の政策決定に大きな影響力を持つ人。役人。
- ※3 すでに触れたように——筆者は直前で「当時の経済を支えていたのは、農業に従事した市民たちであり、彼らには貴族同様、政策に対する発言権が公認されていた。」という内容を述べている。
- ※4 ホメロス——紀元前八世紀、古代ギリシアの詩人。
- ※5 民会——戦争や外交を含むポリスの政策について、市民たちが演説し、採決する会合。
- ※6 アリストテレス——紀元前三八四〜三二二、古代ギリシアの哲学者。

問1 波線部 a～e のカタカナを漢字に直しなさい。ただし、楷書かいしよで大きくていねいに書くこと。

問2 本文中の A B C にあてはまる言葉の組み合わせとして最も適切なものを、次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

- ア (A) つまり B たとえば C だが ー イ (A) だから B そして C したがって
ウ (A) しかも B ところで C つまり ー エ (A) したがって B それでは C しかし ー

問3 傍線部①「このようなポリスのあり方」とあるが、ここでの「ポリス」についての説明として最も適切なものを、次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア 民会で発言する貴族や平民の中には、積極的に政治にかかわる能力をもった者が多かったので、王が彼らの力を認めて引き立て、王の周辺に優秀な家来たちの集団を形成していた。

イ 力を合わせて交易や防衛にあつていた貴族たちが徐々に力をつけ、ポリスを支配していた王たちを退け、平民にも反感を買われない程度に意見を言わせて実権を握っていた。

ウ ポリスでは貴族たちが政治の主導権を握っていたが、すべてを思い通りに動かすことができような力を持つていた訳ではなく、平民の言動が民会の決定や判決に影響を与えていた。

エ 貴族と平民は同じ経済基盤に立っていたので、平民にも政治を左右するような討論が可能であり、貴族は平民にとって有利な政策を提示することで自分たちの地位を確保していた。

問4 傍線部②「政治的支配は、そのような支配とは違う」とあるが、どういふことか。その説明として最も適切なものを、次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア 自由で独立した人々が共同で統治する政治的支配は、権力者が弱者を力によって一方的に支配するようなものではないということ。

イ 人間が集まることで自然に行われるようになる政治的支配は、権力者が臣下や奴隷を暴力で統治するようなものではないということ。

ウ 王や主人が臣民や奴隷を上から支配する政治的支配は、自由で独立した人々がお互いを支配し合うようなものではないということ。

エ 自由で独立した人々の間で行われる政治的支配は、人間の集団において自然に生まれる支配関係のようなものではないということ。

問5 傍線部③「このような『政治』の成立」とあるが、筆者は「政治」についてどのように述べているか。次の説明文の空欄(Ⅰ：十字以内)(Ⅱ：三十字以内)(Ⅲ：十五字以内)(Ⅳ：十五字以内)に適切な表現を入れて答えなさい。

【説明文】

政治においては、まず、意思決定が(Ⅰ)によってではなく、(Ⅱ)でなされること、次に、その決定については、(Ⅲ)ので、(Ⅳ)ことが重要であり、このような政治のあり方は古代ギリシア人によって生み出されたものである。

□ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

小学四年生の僕(ワタル)には、ヤンチャとノリオとハム太という、とても仲の良い友達がいた。ある日、ヤンチャが原因不明の病気で緊急入院をし、何とかしたいと思った僕(ワタル)たちは、タイムマシンを作って未来に行き、未来の医者ヤンチャの病気を治してもらう計画を立てた。

「あとはこれに、頑丈なフタをつければ出来上がりかな」

おばさんが病室を出て行った隙に、ノリオはランドセルから前の日撮った写真を取り出して報告した。「くそう、早く本物を見たいなあ」

ヤンチャは悔しそうに言った。

僕らから作業の経過を知らされるようになって以来、ヤンチャはずいぶん元氣を取り戻したように見える。咳が出るのも、食欲がないのも、赤くて痛痒いポツポツが出るのも相変わらずだったけれど、少なくとも気持ちだけはしゃんとしてきたみたいだ。

「いいなあ、オレも一緒に作りたかったなあ」

「治ったら、また何だつて一緒にできるよ」

と僕が言うと、

「うん……」ヤンチャは窓に目をやった。「けど、いつになったら治るんだろうな」

窓辺には、きれいに飾りつけられた小さなモミの木が置いてあった。もうすぐクリスマス・イヴ。ヤンチャの入院から、もう四か月がとうとうとしている。

「さてはお前、オレたちを信用してないな？」^①ノリオが、わざと怒ったようなふりをして言った。「タイムマシン、お前のために作ってやってるんだぞ。あれが完成してみる、お前の病氣なんかすぐ治る」

「うん。そうだよな」

ヤンチャがにっこりした。その時、

「タイムマシンか……」

聞き覚えのない声に、僕らは慌ててふり返った。

さつきまで横になつて寝ていたはずの隣のおじさんが、起きあがって僕らを見ていた。これまで僕らがここへ来た時、おじさんはたいい待合室でたばこを吸っているか、ベッドにいても一言も話したことはなかったのに。

うちの父さんよりだいたい年上のように見えるその人は、「おじさん」というより「おっちゃん」という感じの人だった。前にヤンチャから聞いたところによると、仕事は大工さんらしい。

でも、その人も今は、やっぱりガリガリにやせてしまっていた。顔や胸に赤い発疹があるのも、しょっちゅう咳をするのもヤンチャと同じだ。

「タイムマシン、か」と、おっちゃんはもう一度くり返した。「いいな。おめえらが作ってんのかい？」

ハム太がノリオを、ノリオは僕を、僕はヤンチャを見た。^②みんな黙っている。

理由もたぶん一緒だった。「そうだよ」と認めたりしたら、大笑いされそうな気がしたのだ。ヤンチャの前で、あれのことを馬鹿にされるのは我慢ならなかった。というより、怖かった。ヤンチャがどれほどあれを気持ちの支えにしているか、僕らがどんな思いであれを作っているか……大人はどうせわかっちゃくれない。あの晩の父さんがそうだったように。

「関係ないだろ」

とうとう、ノリオが言った。すごくAつつけんどんな口調だったのに、

「関係なあねえさ」おっちゃんは怒った様子もなかった。「もしもこの世にタイムマシンなんてもんがあるんなら、一番先に乗せてもらいてえからね」

「一番はヤンチャだよ」

つるつとB口をすべらせたハム太を、ノリオと僕が両側からこづく。

「なら二番目でもいいやね」

と、おっちゃんは言った。少し笑ってはいたが、馬鹿にしているふうではなかった。

^③僕は思いきつて訊いてみた。

「どうしてタイムマシンに乗りたいの？」

ノリオが袖を引っぱるのがわかつたけれど、無視して続ける。

「やっぱり、未来の世界へ行って病氣を治したいから？」

「いんや」と、おっちゃんは言った。「そんな見たこともねえようなとこなんざ行きたかねえね。俺が行くとしたら、過去のほうさ。そうさな、二十年か三十年くれえ前の世界へ、**X**飛べたらありがてえね」

「さん・じゅう・ねん？」とノリオ。「そんな大昔へ行って、いったい何をしようっていうのさ」

「何をって、おめえ……そりゃ、いろいろやり直せるんじやねえかと思つてよ」

そう言つて、おっちゃんは苦笑いしながら窓の外を見やった。やり直したいことがいっぱいあるのかな、と僕は思った。

「それよか、いつそのこと、怒鳴りこんでやるつてのもいいな」と、おっちゃんは言った。

「三十年後の世界が、どれつくれえひでえことになってるか、連中に思い知らせてやるのさ。』どうしてくれんだ、てめえらが好き勝手してくれたせいで俺らが尻拭いさせられてんだぞ』つてね」

〈尻拭い〉

④ 僕は口の中でつぶやいた。

——しりぬぐい。

「そ……そりゃないよ」とハム太が言った。「だってさ、そんなのってフコ……ええと、不公平じゃないか」
するとおっちゃんも窓から僕らに目を移して、へっと頬をゆがめた。

「そうさな。そりゃ、おめえらの言う通りなんだろうけどよ。ただ、このごろ俺も思うようになったよ。『不公平』ってのはもしかして、『人生』ってやつ別の呼び方なんじゃねえかってね。へへっ、こりゃ我ながら名文句だ」

「ごそごそと布団をたくしあげ、しんどそうに横になると、おっちゃんは低くかすれた声で言った。
「ま、気にすんな。おめえらには、まだわかんなくていいこったよ」

学校と病院と家とを結ぶこの道を、もう何回通ったことだろう。

(なんだか、時代劇でみたお百度参りみたいだな)

c 河原の土手を歩きながら、僕は思った。何度も何度もくり返し通うことで、神様に思いが通じてヤンチャが退院できるのだとしたら、お百度どころか、五百度だって千度だって通ってみせるのに。

病院からの帰り道、僕はノリオとハム太に、この間のテレビの話をしようとした。さっきおっちゃんが「尻拭い」と言うのを聞いたら、なぜか※1あの教授の話を思い出して、ついでにあの時のいやな気持ちまで思い出してしまったからだ。

でも、何から話せばいいのかわからなかった。

いつたいたいと言え、今のこの、胸の奥へ奥へと食いこんでいくようなイライラや割り切れなさをわかってもらえるんだろう。

なんだか、夢の中で正体の見えないものに追いかけてる時のようだった。焦れば焦るほど、思うことがうまく言葉にできなくて地団駄を踏みたくなる。そのへんに落ちてる石を片っ端から拾って、めったやたらに投げつけたくなる。

僕は、大きく深呼吸した。

⑤ 真冬だというのに、風はいつもよりなまぬるく、ドブの臭いがきつく感じられた。

立ち止まって土手から下を見る。曇り空のもと、川はよどんでY平べったく見え、汚い泥の色ばかりが目立っていた。そういえば、ずっと前に父さんから聞いたことがある。父さんたちが子供の頃は、この川の水がそのまま飲めたのだそうだ。でつかい魚もいっぱいいて、時には釣って食べたりしたのだそうだ。

もしもこの世に本物のタイムマシンがあって、せつかく未来に行けたとしても、未来の世界は今よりもっと汚くなってるんじゃないだろうか。ヤンチャのような病気だって、もともっと沢山の人に広がってしまっていて、病気じゃない人を見つかるほうが難しいくらいじゃないだろうか……。

僕にはそれが、ただの〈クウソウヘキ〉だとは思えなかった。

(村山由佳「約束」)

※1 あの教授の話——テレビに出演していた教授が原因不明の病気について述べたもの。教授は「環境汚染が問題になっている地域の人々のほうが明らかに発病率が高く、乱暴な言い方かもしれないが、これは我々に対する自然からの罰なのかもしれない」という内容の話をテレビでしていた。

問1 波線部a・cの漢字の読みをひらがなで答えなさい。

問2 二重波線部A・Bの語句の本文中の意味として最も適切なものを、次のア～エの中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

A つっけんどんな口調

ア 相手につかかかるといふ口調

イ 怒りにまかせた激しい口調

ウ 相手を見下したような口調

エ 冷淡でとげとげしい口調

ア よどみなくなめらかにしゃべった

イ 得意げに関係のないことを口にした

ウ 言ってはならないことをつい口にした

エ 聞き取れないほど早口でしゃべった

B 口をすべらせた

問3 本文中のX・Yにあてはまる最も適切な語句を、次のア～オの中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア こそつと イ のつぺりと ウ ちらつと エ ぼつんと オ ひよいつと

問4 傍線部①「ノリオが、わざと怒ったようなふりをして言った」とあるが、この時のノリオの気持ちを四十五字以内で説明しなさい。

問5 傍線部②「みんな黙っている」とあるが、それはなぜか。七十字以内で説明しなさい。

問6 傍線部③「僕は思いきって訊いてみた」とあるが、それはなぜか。その説明として最も適切なものを、次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア おっちゃんがタイムマシンについて興味を持っていることが気になり、もしかしたらおっちゃんがタイムマシンについて何か情報を持っているのではないかと思ったから。

イ おっちゃんがタイムマシンのことを真面目に受け止めているように感じられ、もしかしたらおっちゃんが自分たちと同じような考えを持っているのではないかと思ったから。

ウ おっちゃんがタイムマシンに乗せてもらいたいとしつこく口にするのが不思議であり、おっちゃんがタイムマシンにこだわる理由を何とかして突き止めたいと思ったから。

エ おっちゃんがタイムマシンに乗せて欲しいと何度も頼み込む理由がわからず、おっちゃんがタイムマシンで未来に行つて何をしたのかをまずは探つてみたいと思ったから。

問7 傍線部④「僕は口の中でつぶやいた」とあるが、この時の僕の説明として最も適切なものを、次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア おっちゃんの「尻拭い」という言葉とハム太の「不公平」という言葉が気になって、ヤンチャだけが過去の「尻拭い」のために「不公平」な目に遭わされているという許せない現実に対して強い憤りを感じ始めている。

イ おっちゃんの「尻拭い」という言葉の意味が全く理解できずに困惑していたが、ハム太の「不公平」という言葉をきっかけてヤンチャの置かれているつらい状況を言い当てた言葉であることに気づき始めている。

ウ おっちゃんの「尻拭い」という言葉を聞いてテレビで見た教授の話を出し、自然から人間に与えられた罰としての「尻拭い」のためにヤンチャが病気になるってしまったのではないかという思いにとらわれ始めている。

エ おっちゃんの「尻拭い」という言葉によつてこの間耳にした教授の話が急に思い出され、ヤンチャも含めた自分たちが自然に対してよくないことをしてきたのが悪かったのではないかという後悔の念を抱き始めている。

問8 傍線部⑤「真冬だというのに、風はいつもよりなまぬるく、ドブの臭いがきつく感じられた」とあるが、この一文の本文中における働きについての説明として最も適切なものを、次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア 僕が環境破壊の悲惨な現実を目の当たりにする様子を描いた表現であり、父が語っていた美しい自然とはあまりにも異なる現状に対する僕の驚きを読者に印象づける働きをしている。

イ 季節に対する違和感を僕が触覚を通して感じ取る様子を描いた表現であり、僕の予想した通りに状況が悪化した未来がきつと訪れるにちがいないと読者に印象づける働きをしている。

ウ いつも目にして川に對する僕の思いを感情的に描いた表現であり、自然だけでなく世界全体がひどいことになりそうな未来に對する僕の不安を読者に印象づける働きをしている。

エ 僕が汚れた川に目を向けるきっかけとなる状況を感じ覚的に描いた表現であり、僕が想像する悲惨な未来が必ずしも非現実的なものではないように読者に印象づける働きをしている。

三 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

①今の学校は、どうも（話し言葉）を重視している気がします。意思の^a疎通のための言葉、人と議論するための言葉、コミュニケーションのための言葉の大切さは教わるみたいだけど、（書き言葉）^bについては、単純に作文を書くつてくらししか教わらないんじゃないですか。そのせいで、かえって書くことが苦手になっちゃったという人もいるんじゃないかなあ。

僕は話すことに苦手意識があるので、アナウンサーみたいによどみなくしゃべる人には^b憧れがあります。だけど、すらすらとしゃべることができるからといって、全部が伝わるとはとうてい思えないですね。流暢^cにしゃべることができる人は自分がいったことが相手にどんなふう伝わるか案外無頓着^dだったりして、こりゃあ、危なっかしいなあと思うことがけっこうあります。どんなにしゃべるのがうまい人でも、伝えきれないものはどうしたってあるはずですよ。

樹でいったら、地面の上に見えている枝葉じゃなくって、根っこの部分が言葉にもあるんですよ。地面の下の見えてない部分がある。

たとえば、人には誰にもいえない気持ちだつてありますよね。心の中で思っていることだから、いいことばかりじゃない。悪いことだつて考える。僕はこれを（個人幻想）と呼んでいます。

みなさんくらしいの。年頃^eだと好きな人ができたりもするでしょう。漠然^fとした異性への憧れの先には、その人と恋人になりたい、その人と家族になりたいという思いがある。僕はこれをペアの幻想、（対幻想）と呼んでいます。思春期というのは、そんなふう^gに（ひとり）から（ふたり）にスイッチが入る時期なんですね。性の目覚め^hっていつてもいいんだけど、

肉体的なことと精神的なことがいっぺんにやってくるんだから大変なものです。

好きな人ができると、自分とその人の共通点が気になったりもするでしょう。あるいは家族に対して、親はああいうけど、自分はちがうんだよなことが出てきたりする。(個人幻想)と(対幻想)は一致するところもあるけど、食いちがうところもあるわけだ。

つまり、あなたが「自分はひとりだな」と思うようになったのは、自分以外の誰かを意識するようになったからともいえる。人と比べて自分はどかがどう同じで、どちがうのかをいろいろと考えるようになって、自分のことがだんだん見えてきたからでもある。

だとしたら、相手にうまく伝わらない、誰ともわかちあえないその気持ちこそが(自分)じゃないですか。自分でもわけがわからない、もやもやしたその気持ちの中にこそ、自分自身をもっと深く知るための手がかりが潜んでいる。書くことは、それを掘り起こすための方法でもあるんですよ。

将来について考えるようになれば、視野はさらに広がっていきます。(学校)も集団だし、(社会)とか(国家)も集団といえば、集団ですよ。同じような考えをした人が集まって集団をつくっている。僕はこれを(共同幻想)と呼んでいるんだけど、みんなが思い描いていることと、自分が思っていることは必ずしも一致するとは限らない。これは子どもも大人も一緒です。

大人だって、やっぱり「自分はひとりだな」と思いながら生きてるんですよ。でもそれはふだんは地面の下で見えていない、根っこの部分なんです。

(吉本隆明『15歳の寺子屋 ひとり』)

問1 波線部a、cの漢字の読みをひらがなで答えなさい。

問2 傍線部①「今の学校は、どうも(話し言葉)を重視している気がします」とあるが、筆者は(話し言葉)が重視されていることについてどのように考えているか。その説明として最も適切なものを、次のア、エの中から選び、記号で答えなさい。

ア (話し言葉)が重視されていく中で、子どもたちのコミュニケーション能力が格段に高まって意思の疎通がうまくいくようになるのではないかと期待している。

イ (話し言葉)が重視されていく中で、よどみなく話せるようになればすべてを伝えることができると思いきや、うようになるのではないかと心配している。

ウ (話し言葉)が重視されていく中で、アナウンサーのように流暢に自分の思いを表現することができる子どもたちが増えるのではないかと期待している。

エ (話し言葉)が重視されていく中で、自分の心の中の思いを正確に伝えるために欠かせない能力である書く力が低下してしまうのではないかと心配している。

問3 傍線部②「書き言葉」とあるが、筆者はこの文章で「書き言葉」をどのようなものと考えているか。解答欄に合うように、四十五字以内で説明しなさい。

問4 傍線部③「(ひとり)から(ふたり)」にスイッチが入る」とあるが、これはどういうことか。その説明として最も適切なものを、次のア、エの中から選び、記号で答えなさい。

ア 主に自分のことにだけ興味が向いていたのが、ある時を境に他者との関わりに関心が向くようになるということ。以前は自分のしたいことにだけ夢中だったが、急に相手の希望を最優先にして行動するようになるということ。

ウ もともと自分以外の人にも関心を抱いていたのが、いつの間にか相手のことを第一に考えるようになるということ。自分ひとりで孤独に耐えていたのが、知らぬ間に誰かとともに過ごすことを求めるようになるということ。

問5 この文章を読んだ生徒A、Dが次のア、エのやりとりをしていた。本文の内容を正しく理解した発言として最も適切なものを、次のア、エの中から選び、記号で答えなさい。

ア 生徒A「私も、友達や家族といっても「自分はひとりだな」と感じることがあるな。それは思春期の私達が自分のことを他人にうまく表現するための言葉を身につけることができているからだよ。

イ 生徒B「そんな中で僕らも成長していきただけで、思春期特有の「ひとり」を克服して大人になれることを思えば、「ひとり」も決して悪いことばかりではないという気がするね。

ウ 生徒C「そうかな。むしろ「ひとり」は思春期を過ぎて大人になった後に、強く意識される実感なんじゃないかな。自分が思っていることと集団が思っていることとの不一致からくる孤独感は大人の方が強いと思うよ。

エ 生徒D「自分はひとりだな」と感じることはつらいことかもしれないけれど、それは自分以外の誰かを意識するようになったということであって、そんな思いは年齢に関係なく誰でも持つようになるような気がするな。